



## 開催趣旨

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者: 日本DOHaD学会事務局<br>公開日: 2019-08-21<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/10271/00003578">http://hdl.handle.net/10271/00003578</a>                       |

## 開催趣旨

最近の欧米諸国の出生コホート研究の連携は、ネットワークやコンソーシアムを構築し、データ統合やメタアナリシスを行うような形が潮流となっています。例えば、英国の代表的な 8 出生コホート研究のデータ統合・標準化を目的とする CLOSER、欧州を中心とする出生コホート研究のネットワーク Birthcohorts.net を基盤とし、データ統合・データベース構築を目的とする CHICOS、環境リスク評価を目的とする ENRIECO、ゲノムワイド関連研究のデータ統合・メタアナリシスに特化した EGG、EAGLE コンソーシアム、エピゲノムワイド関連研究に特化した PACE など多種多様の目的の出生コホート研究コンソーシアムが存在し、これまでに数多くの研究成果を発表しています。一方、わが国の出生コホート研究の連携は立ち遅れています。先制医療の一環として、出生コホート研究が取り上げられました。さらに、国として重点的に取り組むべき研究開発の戦略が提言され、連携への動きがみられるようになってきました（科学技術振興機構 研究開発戦略センター：戦略プロポーザル「ヒトの一生涯を通じた健康維持戦略 ー特に胎児期～小児期における先制医療の重要性ー」, 2014）。わが国の成人コホート研究・横断研究に関しては、既に EPOCH-JAPAN（厚生労働科学研究費）、大規模分子疫学コホート研究の推進と統合（JCOSMOS）（科学技術戦略推進費）、社会医学によるイノベーションプロジェクト「(真の社会イノベーションを実現する革新的「健やか力」創造拠点）」（日本医療研究開発機構）などのプロジェクトが実施されてきました。

早期介入に関しては、「妊産婦のための食生活指針」（厚生労働省 2006）、「出生前・子どものときからの生活習慣病対策」（日本学術会議 2008）などの指針・提言が 10 年以上前に相次いで公表されました。このように早期介入の重要性は、わが国の低出生体重児の割合の顕著な増加とともに認識されてきましたが、限定的な効果は認められたものの制度としては定着しませんでした。最近、出生コホート研究の盛んな欧米諸国を中心に、次世代の生活習慣病の予防や医療経済学的見地から、思春期や妊娠前の健康の重要性が注目されています（Lancet 2018, Nature 2018）。食育、健康教育の重要性は、前述の戦略プロポーザルでもライフステージに応じたヘルスケアという形で取り上げられています。今後、早期介入の連携と標準化を進め、制度として定着することが期待されます。

本ワークショップは、シンポジウムとグループワークにより構成されています。これらを通じて、これまで連携が乏しかったわが国の出生コホート研究と介入研究において、具体的にどのような形で連携していけるかを検討します。シンポジウムでは、まず、既に様々な形で連携を進められている成人の疫学研究の成功事例をご提示いただきます。次に、出生コホート研究の現況をご報告いただいた後、グループワークで、出生コホート研究の連携のあり方を議論します。早期介入に関しても、連携のあり方と標準化の方策を議論し、ライフステージに合った介入モデルを検討できればと思っています。このワークショップを契機に、わが国の出生コホートと早期介入の連携が進み、わが国が直面する健康課題の本質を明らかにし、克服する糸口になることを願っています。

[注] CLOSER: Cohort and Longitudinal Studies Enhancement Resources; CHICOS: Developing a Child Cohort Research Strategy for Europe; ENRIECO: Environmental Health Risks in European Birth Cohorts; EGG: Early Growth Genetics; EAGLE: EARly Genetics and Lifecourse Epidemiology; PACE: Pregnancy And Childhood Epigenetics; EPOCH-JAPAN:

Evidence for cardiovascular prevention from observational cohorts in Japan; JCOSMOS: Japan COnsortium for cohort Studies of MOleculE and lifestyle

実行委員

|                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 荒木 敦子 (北海道大学)        | 石黒 真美 (東北大学)         |
| 大西 一成 (聖路加国際大学)      | 小原 拓 (東北大学)          |
| 岸 玲子 (北海道大学)         | 久保田 健夫 (聖徳大学)        |
| 栗山 進一 (東北大学)         | 西條 泰明 (旭川医科大学)       |
| 櫻井 健一 (千葉大学)         | 佐田 文宏 (中央大学)         |
| 鈴木 孝太 (愛知医科大学)       | 竹内 文乃 (慶應義塾大学)       |
| 土屋 賢治 (浜松医科大学)       | 秦 健一郎 (国立成育医療研究センター) |
| 福岡 秀興 (福島県立医科大学)     | 目時 弘仁 (東北医科薬科大学)     |
| 森崎 菜穂 (国立成育医療研究センター) | 森 千里 (千葉大学)          |
| 安田 和基 (国立国際医療研究センター) |                      |

日本疫学会

学会等連携推進委員会

曾根 博仁

日本 DOHaD 学会

出生コホート連携ワーキンググループ

DOHaD 疫学セミナー

佐田 文宏